

# 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部

## 第 2 9 回 本 部 会 議

日時：令和2年12月10日（木）16：00～

場所：本庁3階テレビ会議室等

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 今後のステージの運用（案）及び  
感染拡大防止に向けた施策について（案）（協議事項）

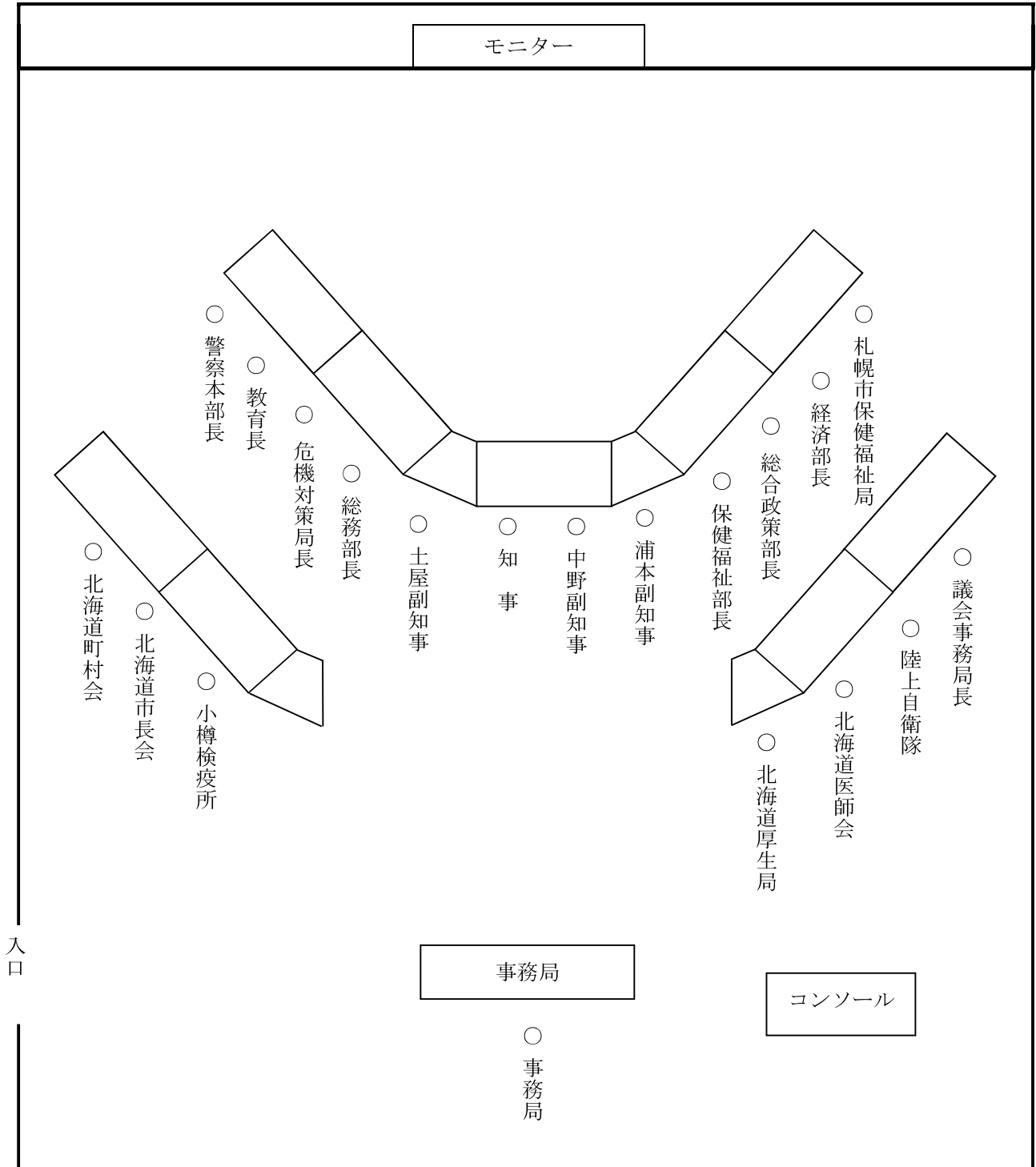
### 3 閉 会

資料1-1	今後のステージの運用について（案）
資料1-2	札幌市の感染状況について
資料2	感染拡大防止に向けた施策について（案）
資料3	今後のステージの運用及び対策（道案）に対する主な意見
参考資料	新型コロナウイルス感染症について



# 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 配席図

〔本庁3階テレビ会議室〕  
令和2年(2020年)12月10日(木)



## 第29回 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部会議出席者名簿

日時: 令和2年12月10日(木)

場所: 本庁3階 テレビ会議室

### (本部長)

所 属	職 名	氏 名
北海道(本部長) (副本部長) (副本部長) (副本部長)	知 事	鈴木直道
	副 知 事	浦本元人
	副 知 事	土屋俊亮
	副 知 事	中野祐介
総務部	部 長	平野正明
	職 員	松浦英則
総合政策部	危 機 対 策 局 長	野崎直人
	部 長	倉本博史
	知 事 室 長	濱坂真一
	地 域 振 興 監	佐々木徹彦
環境生活部	交 通 企 画 監	柏木文彦
	部 長	築地原康志
	東 京 オ リ ン ピ ッ ク 連 携 推 進 監	阪正寛
保健福祉部(総合調整員)	ア イ ヌ 政 策 監	長橋聡徹
	部 長	三瓶徹一
経済部	少 子 高 齢 化 対 策 監	京谷栄邦
	部 長	山岡隆寛
	観 光 振 興 監	大谷内隆則
農政部	食 産 業 振 興 監	小田原輝和
	部 長	小田原大
水産林務部	食 の 安 全 推 進 監	宮田大也
建設部	部 長	佐藤卓也
	部 長	小林敏克
出納局	建 築 企 画 監	長浜光弘
企業局	会 計 管 理 者	三井真也
道立病院局	北 海 道 公 営 企 業 管 理 者	佐々木誠也
議会事務局	病 院 事 業 管 理 者	鈴木信寛
北海道教育委員会	局 長	近藤晃司
北海道警察本部	教 育 長	小玉俊宏
	本 部 長	小島裕史

### (地方本部)

所 属	職 名	氏 名
空知総合振興局	局 長	高野瑞洋
石狩総合振興局	局 長	佐藤藤則
後志総合振興局	局 長	北谷啓幸
胆振総合振興局	局 長	花岡祐志
日高総合振興局	局 長	北村英則
渡島総合振興局	局 長	鳴海拓史
檜山総合振興局	局 長	永山秀明
上川総合振興局	局 長	中島俊明
留萌総合振興局	局 長	宇野稔弘
宗谷総合振興局	局 長	竹花賢一
オホーツク総合振興局	局 長	橋本智史
十勝総合振興局	局 長	水戸部裕
釧路総合振興局	局 長	山口修司
根室総合振興局	局 長	遠藤俊充
東京事務所	所 長	森隆司

### (オブザーバー)

所 属	職 名	氏 名
厚生労働省北海道厚生局	健 康 福 祉 部 長	里平倫行
陸上自衛隊北部方面総監部	陸上自衛隊北部方面総監部防衛部	貴島康二
小樽検疫所	次 長	伊高浩和
札幌市保健福祉局 保健所	感 染 症 対 策 部 長	山口亮
一般社団法人北海道医師会	事 務 局 代 行	柴田秀和
北海道市長会	事 務 局 次 長	那須秀昭
北海道町村会	事 務 局 長	山内康弘

# 今後のステージの運用について (案)

【令和2年12月10日】

	医療提供体制等の負荷			監視体制	感染状況		
	病床全体	うち重症者 用病床	療養者数	検査 陽性率	新規 感染者数	先週1週間 との比較	感染経路 不明割合
全道 12/9	996床	27床	増加 2252人	減少 6.0%	1313 人/週	減少	28.7%
うち 札幌市	403床	19床	1126人	7.5%	789 人/週	減少	34.5%
ステージ4基準	350床	35床	796人	10%	796人/週	増加	50%

**札幌市における強い措置を継続する  
旭川市に行動変容の措置を講じる**

## 【判断の根拠】

別添のとおり

## 【基本的考え方】

札幌市内における感染状況を踏まえつつ、本道の人口の3分の1を占め、都市機能が集積し、人の移動の中核となるなど、社会経済活動の中心的地域という特殊性に鑑み、札幌市内はもとより、北海道全域へのこれ以上の感染拡大を徹底して抑制するため、全道の警戒ステージは3を維持した中で、札幌市において、ステージ4相当の特措法に基づく措置を講じる。

また、道北圏域の中心都市であり3次医療圏の中核を担っている旭川市において、集団感染を中心とした厳しい感染状況が続いていることから、これ以上の医療提供体制の負荷を高めないため、特措法に基づく措置を講じる。

## 札幌市における最近の感染状況について

「すすきの地区」における営業時間短縮等の要請を行った施設での感染は11月後半から減少に転じ、急激に増加してきた市全体の新規感染者数も11月24日をピークに減少しているほか、リンクなしの感染者数の割合はピーク時(11月8日)から大きく低下している。

しかしながら、依然として1日に100名を超える感染確認が続き、人口当たりの感染者数は全国でも極めて高い状態となっているほか、年代別割合では60歳代以上が30%を超えるなど、一般に重症化リスクが高いとされる高齢者の割合が増加しており、重症患者数も増加傾向にある。

また、医療・福祉施設での集団感染は引き続き多数発生するとともに、医療・福祉施設を経路とする新規感染者数が増加しており、患者数の増加による病床のひっ迫に加えて、集団感染等の影響による医療従事者の不足等も相まって、交通事故や急病などの緊急時の医療提供ができなくなる恐れが継続している。

特に、入院患者や重症者のピークは新規感染者数のピークよりも遅れてくるものと考えられ、今後も厳しい状況が続くことが想定される。

以上のことから、改善の兆しが現れつつも、新規感染者数は引き続き高い水準にあること、入院者数や重症者数は増加傾向となっており、年末年始に向けて、医療提供体制の負荷をこれ以上高めないためには、より一層、感染者数を抑制する必要があることなどから、引き続き、札幌市を対象にステージ4相当の強い措置を講じる必要がある。

また、大人数での飲食の機会が多くなる時期を迎えることから、そうした場面でのリスク回避の徹底が必要である。

2

## 札幌市以外の最近の感染状況について

11月以降、急激に増加してきた新規感染者数は、12月2日をピークに減少に転じているものの、引き続き1日に50名から100名の新規感染者の確認が続いている。

全道各地で医療・福祉施設における集団感染が発生し、特に医療機関での集団感染により、患者数の増加と相まって病床のひっ迫度合いを増加させている。また、離島での集団感染の発生は一挙に負荷を高める可能性がある。

一方、リンクなしの感染者数の割合は、ピーク時(11月4日)から大きく低下し、陽性率は横ばいで推移しており、集団感染の発生と大規模化が新規感染者数を押し上げている。また、年代別割合では、直近1週間で60歳代以上が35%となっており、引き続き、高齢者が高い割合を占めている。

以上のことから、札幌市以外の地域では、新規感染者数、リンクなしの割合、陽性率などは札幌市と比べ低くなっているが、集団感染の発生などにより、医療提供体制のひっ迫度合いが増している地域があることなどを踏まえ、これまでの要請に加えて、大人数での飲食の機会が多くなる時期を迎えることから、そうした場面でのリスク回避の徹底が必要である。

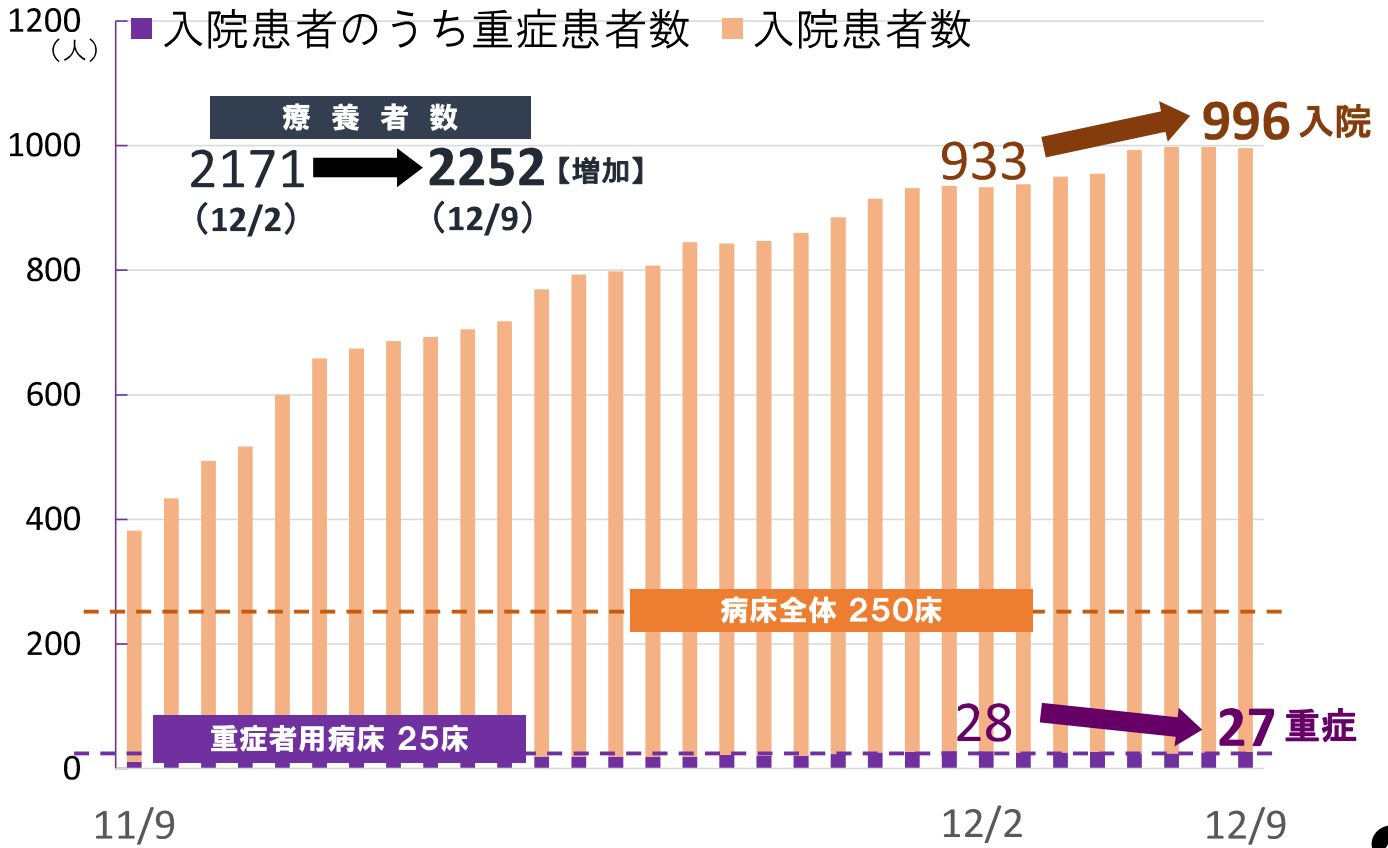
なお、旭川市内では、医療機関等における集団感染を中心に感染拡大が続いてきたことから、リンクなしの割合は低く、現時点で市中における感染の広がりが確認されている状況にはない。

しかしながら、12月8日には、これまでの最多となる1日50人の感染が確認され、人口当たりの感染者数は、極めて高い水準を続けている。また、これまでの医療機関等での集団感染の発生により、入院患者数の増加や医療従事者の不足等が深刻化しており、感染症への対応はもとより、交通事故や急病など緊急時の医療提供ができなくなる恐れも生じている。

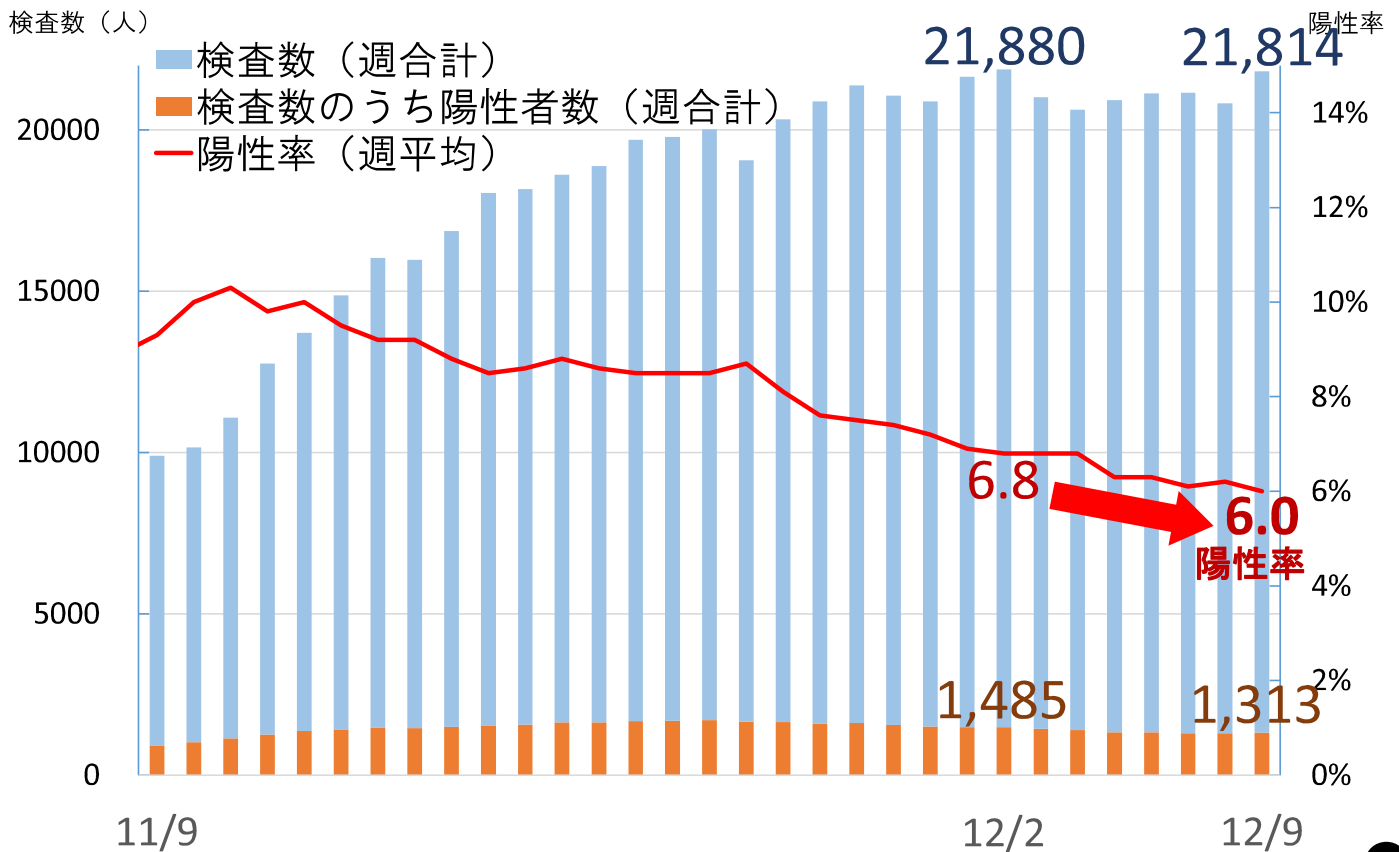
以上のことから、旭川市において、現時点では市中感染が広がっている状況とは言えないものの、医療提供体制の負荷の状況は、大変厳しく、今後、年末に向けて医療提供体制の負荷がさらに高まると危機的な状況になることも踏まえ、これ以上の感染拡大を防止するためにも、行動変容のさらなる徹底と、大規模な集団感染へのより迅速な対応が重要となっている。

3

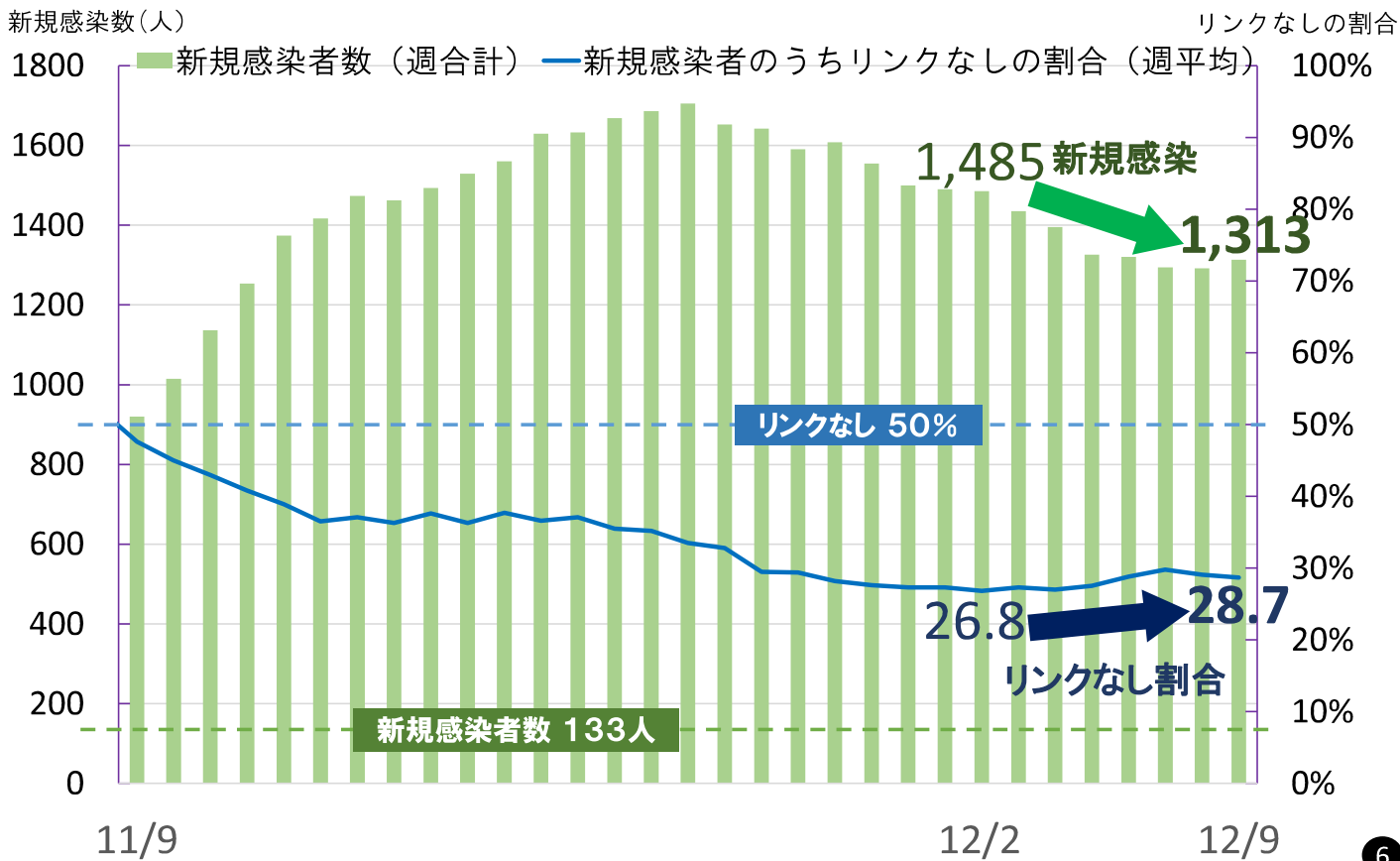
# 医療提供体制等の負荷(指標①)



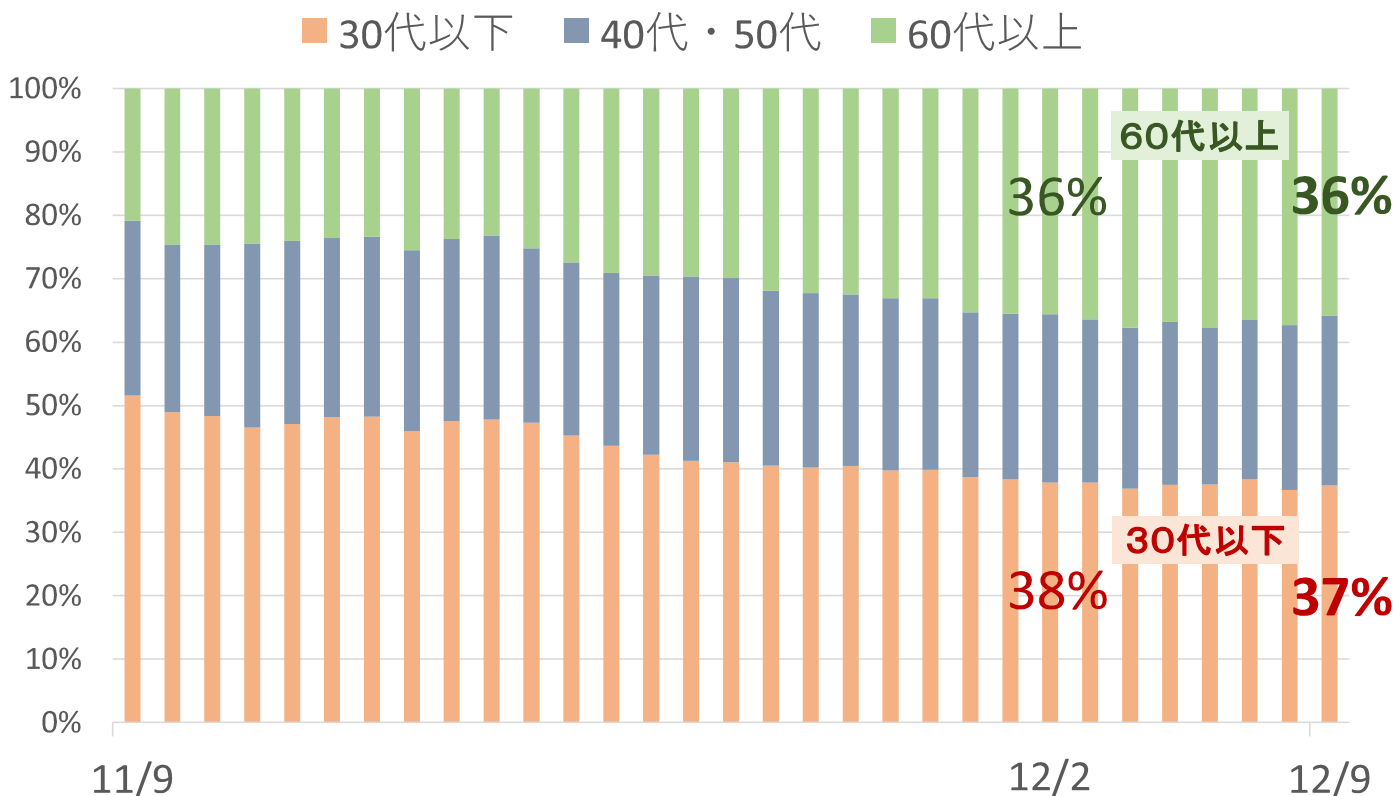
# 監視体制(指標②)



# 感染状況(指標③)



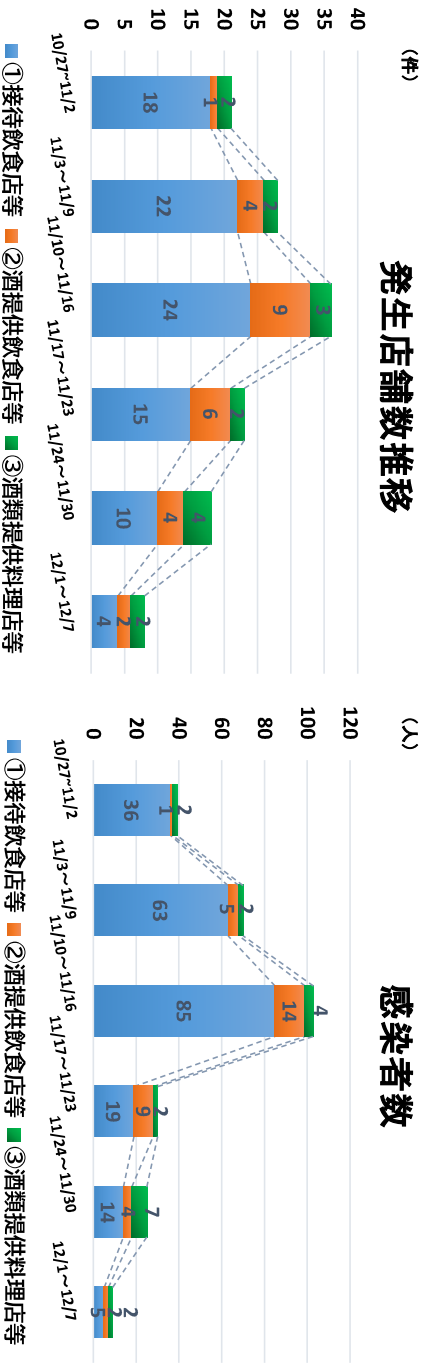
# 新規感染者の年代別割合(全道)



(新規感染者のうち年齢公表分を7日間平均で集計)



# 時短要請等による感染状況の推移(札幌市)

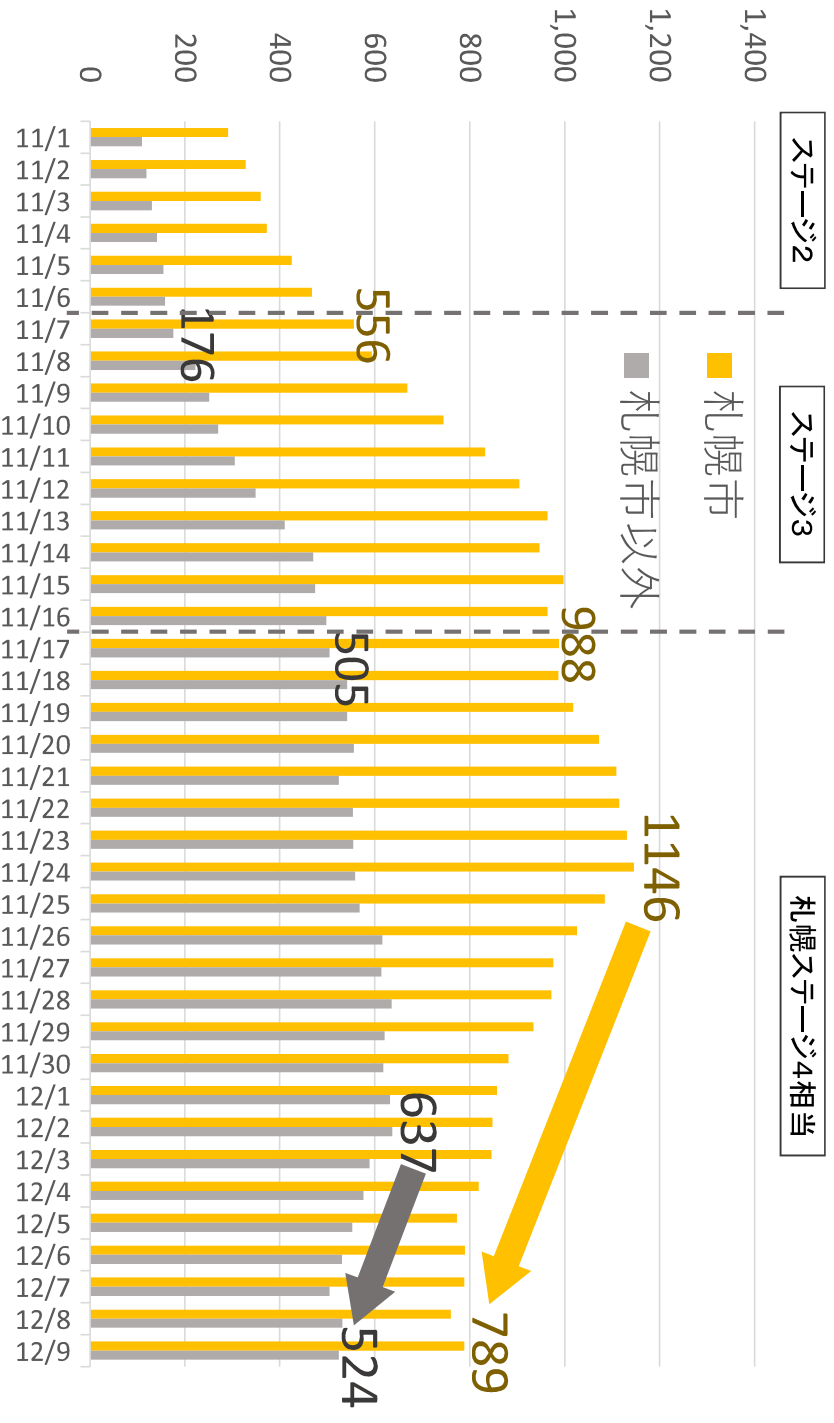


※ ①ニュークラフ、ホストクラブ等 ②バー、ナイトクラブ等 ③居酒屋、ラーズ店、そば屋等

➤ 11月後半から感染者は減少に転じており、感染の拡大傾向は落ち着きを見せているが、再び増加に転じることを防がなければならない

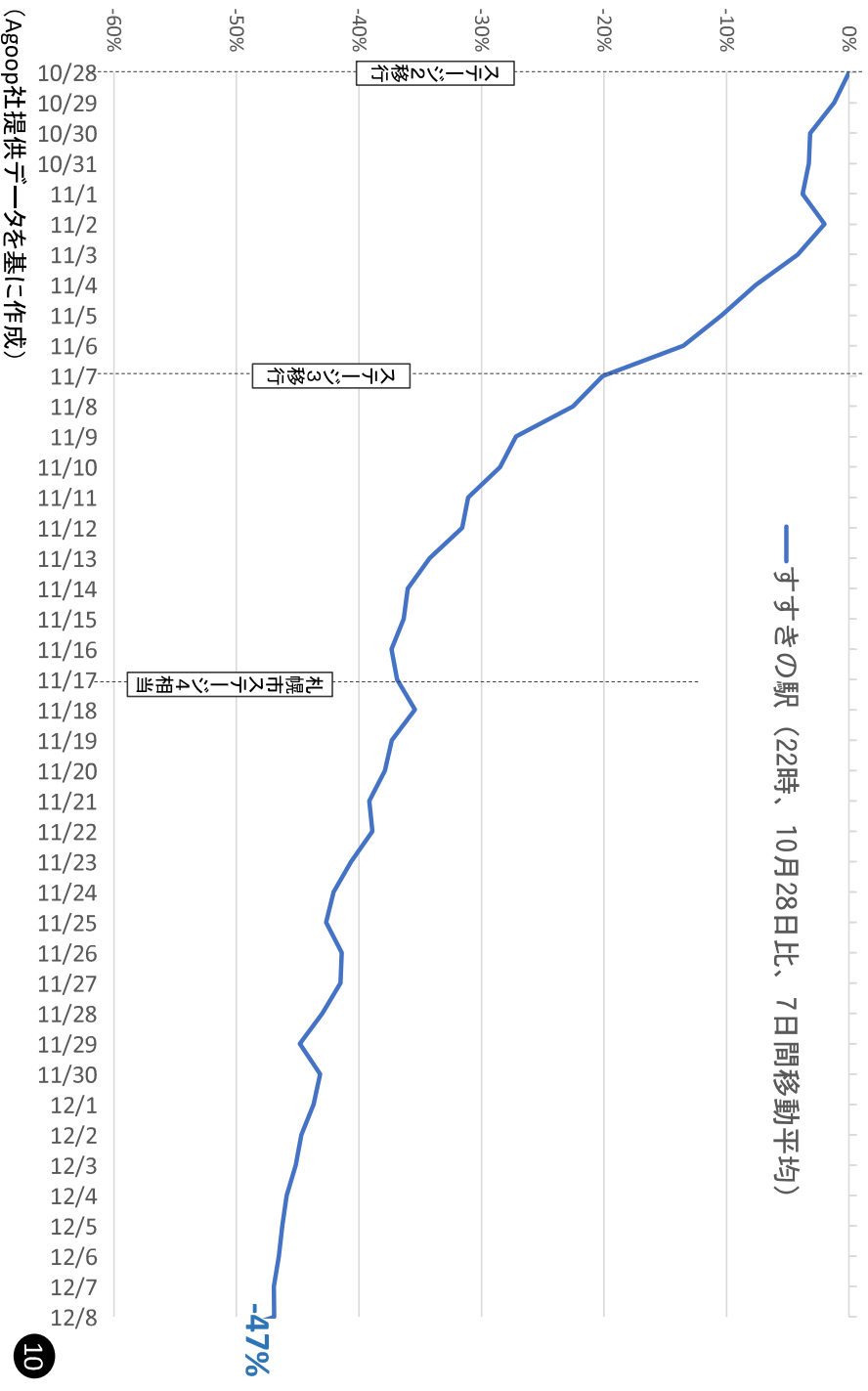
※札幌市提供資料

# 地域別新規感染者数(札幌市／札幌市以外)

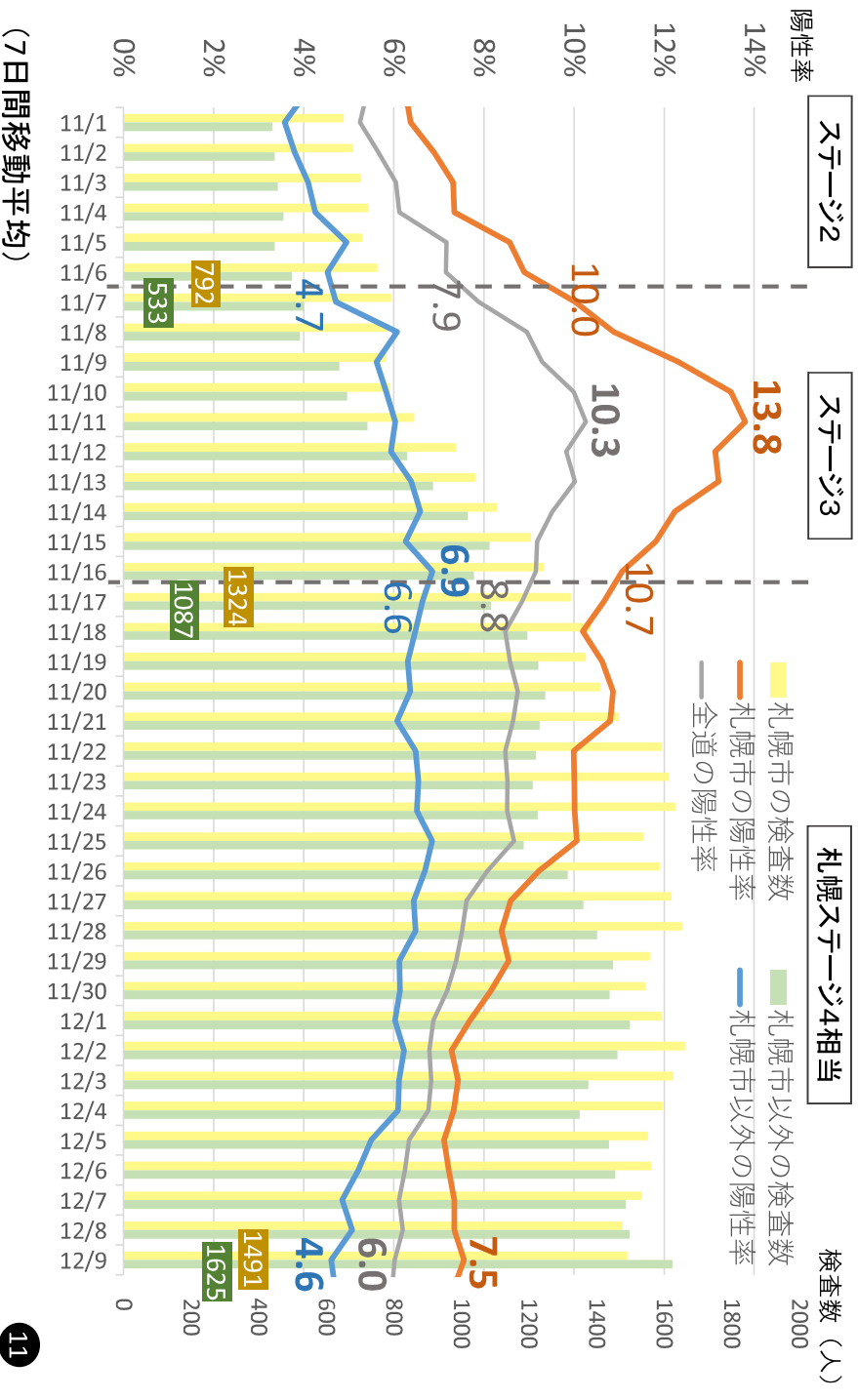


(7日間合計で集計。「札幌市」には、札幌市が居住地非公表として発表し者及び札幌市以外が札幌市居住として発表し者を含む。)

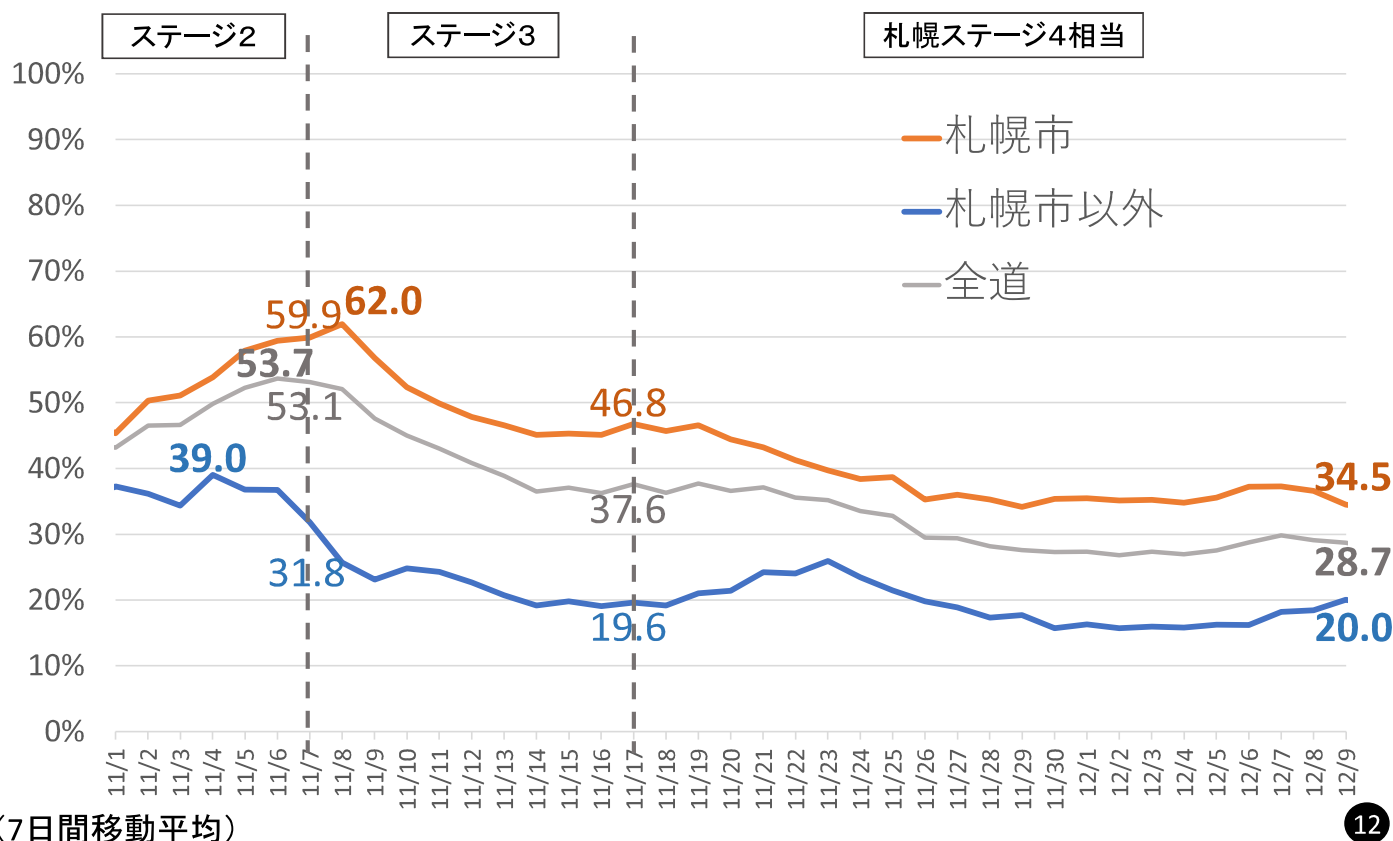
# すすきの駅周辺の人出(対10月28日比)



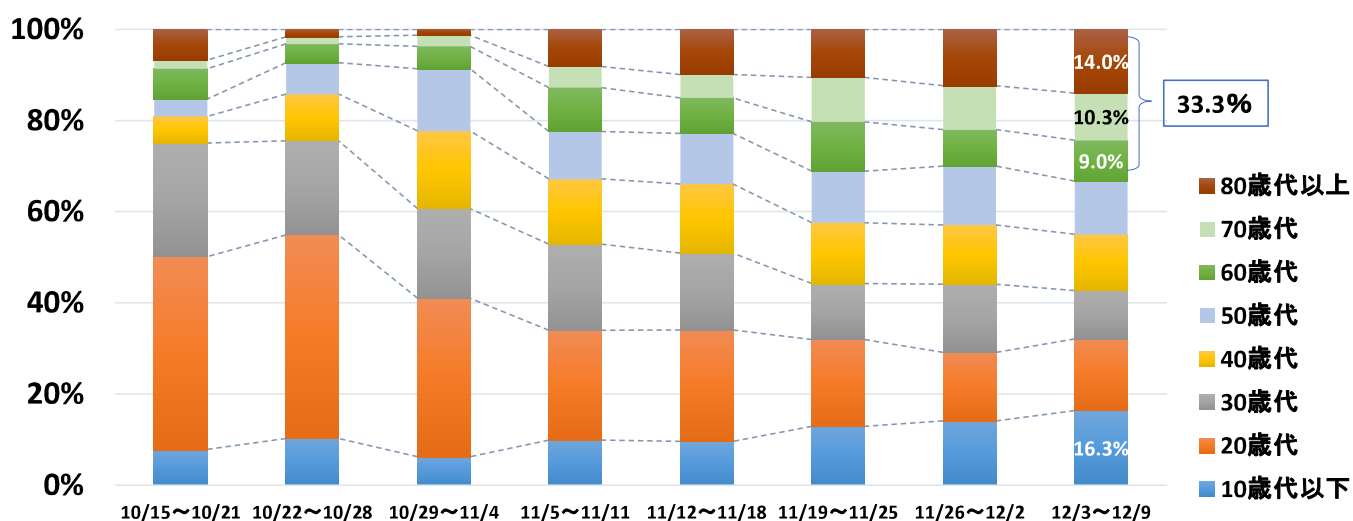
# 地域別検査数・陽性率(札幌市／札幌市以外)



# 地域別リンクなし割合(札幌市／札幌市以外)

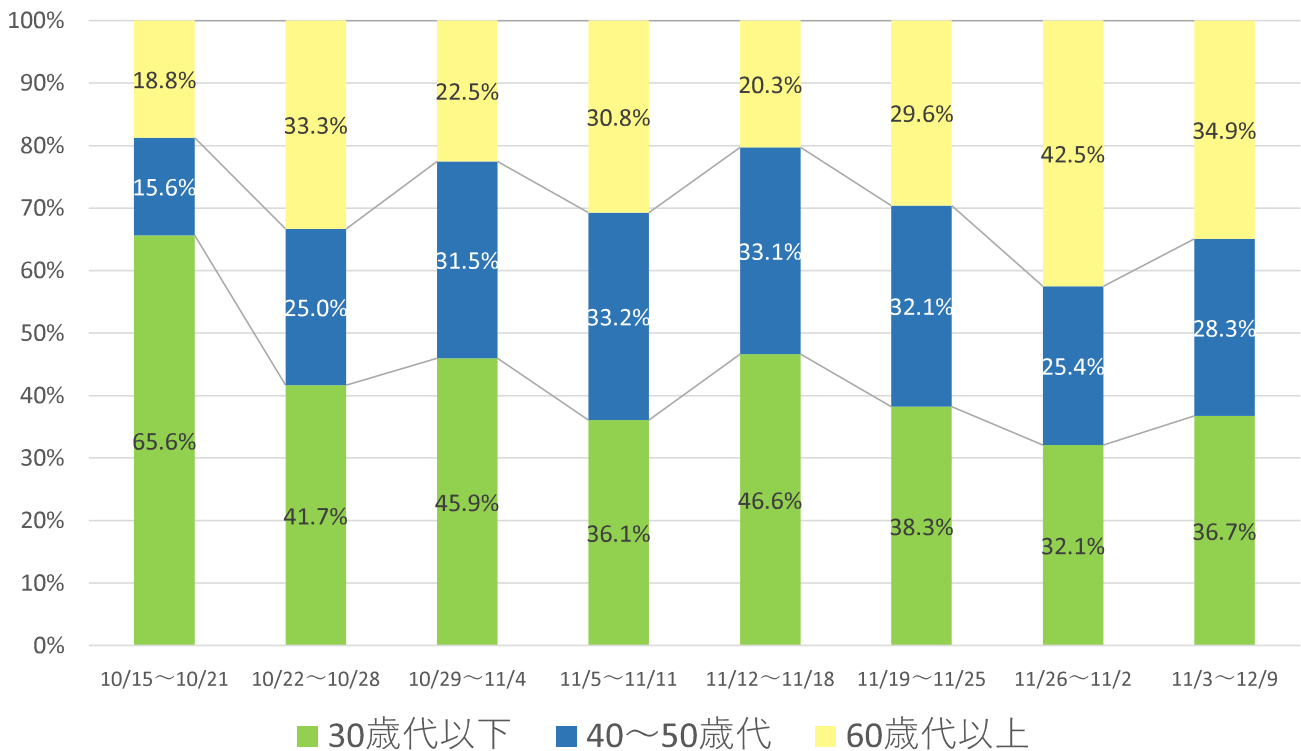


# 年代別割合(札幌市)



➤ 重症化リスクの高い高齢者の感染者増による医療機関への負荷増大に備えなければならない

# 年代別割合(札幌市以外)



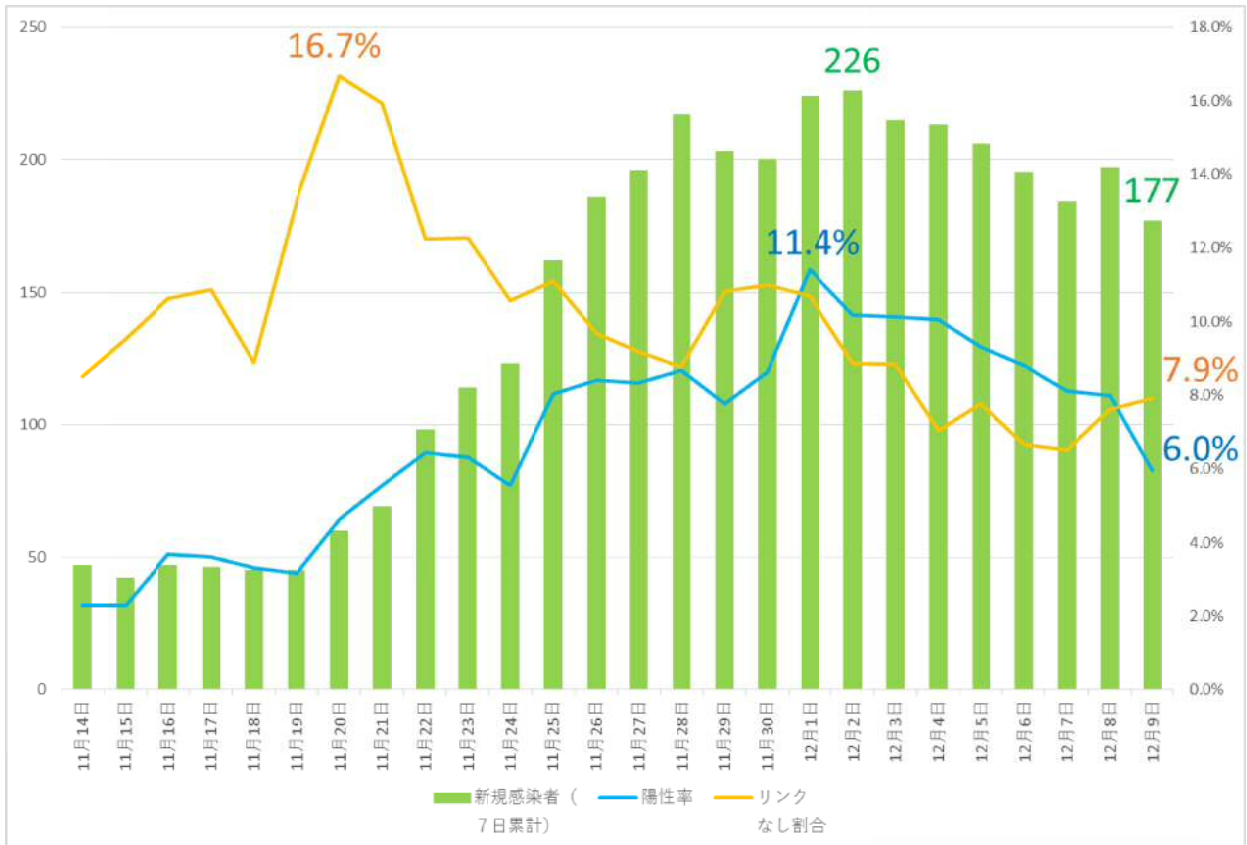
# 集団感染の発生状況

(12/6現在)

	札幌市		札幌市以外		合計	
	10/28～ 11/16 (20日間)	11/17～ 12/6 (20日間)	10/28～ 11/16 (20日間)	11/17～ 12/6 (20日間)	10/28～ 11/16 (20日間)	11/17～ 12/6 (20日間)
<b>医療施設・ 福祉施設</b>	10件 (234人)	23件 (572人)	7件 (408人)	16件 (410人)	17件 (642人)	39件 (982人)
<b>飲食店等 (※)</b>	12件 (119人)	3件 (38人)	7件 (85人)	2件 (23人)	19件 (204人)	5件 (61人)
<b>事業所等</b>	5件 (53人)	6件 (78人)	3件 (51人)	7件 (80人)	8件 (104人)	13件 (158人)
<b>学校</b>	4件 (50人)	4件 (102人)	3件 (36人)	4件 (25人)	7件 (86人)	8件 (127人)
<b>合計</b>	31件 (456人)	36件 (790人)	20件 (580人)	29件 (538人)	51件 (1036人)	65件 (1328人)

※接待を伴うものを含む

# 旭川市の感染状況





# 感染拡大防止に向けた施策について (案)

【令和2年12月10日】改訂

# 集中対策期間

～**年末年始を見据えて**感染拡大を徹底して抑え込むため、集中的に取り組む施策～

年末年始の取組を徹底する措置

令和2年12月12日（土）～ 令和3年1月15日（金）

休業や外出自粛などの強い措置

令和2年12月12日（土）～ 令和2年12月25日（金）

特措法第24条第9項に基づく協力要請等の実施

## 札幌市内

(※) の措置は12月25日まで

### 【道民及び札幌市内に滞在している皆様への要請】

#### ■感染リスクを回避できない場合 (※)

- ・不要不急の外出を控える
- ・市外との不要不急の往来を控える

#### ■感染リスクを回避する行動の徹底

- ・自宅を含む飲食の場面においては、5人以上や2時間を超える長時間の飲食を控える（同居者のみの場合を除く）
- ・「新北海道スタイル」の実践を宣言していない店舗や施設の利用を控える
- ・重症化リスクの高い方（高齢者、基礎疾患を有する方等）と接する方及び重症化リスクの高い方においては、マスクの着用、手洗いなど感染リスクを回避する行動を更に徹底する
- ・国の接触確認アプリ（COCOA）や道のコロナ通知システムを徹底して活用する

#### ■営業時間短縮等の要請に呼応した行動変容の要請 (※)

- ・札幌市内における接待を伴う飲食店の利用を控える
- ・札幌市中央区のうち、南3条から南8条まで、西2丁目から西6丁目までの区域・狸小路1丁目から狸小路7丁目までの狸小路に面する区域においては、22時から翌5時まで、酒類を提供する施設（酒類提供時間を5時から22時までとしている施設を除く）の利用を控える

### 【札幌市内の事業者の皆様への要請】

#### ■札幌市内の接待を伴う飲食店について休業を要請（対象区域、施設等は別添のとおり） (※)

#### ■札幌市中央区のうち、南3条から南8条まで、西2丁目から西6丁目までの区域・狸小路1丁目から狸小路7丁目までの狸小路に面する区域における酒類提供を行う施設に対し、営業時間等の短縮（対象区域、施設、営業時間等は別添のとおり） (※)

#### ■業種別ガイドラインや新北海道スタイルなど、店舗における感染拡大防止対策の再確認と徹底

#### ■年末年始における挨拶回りを控える

#### ■休憩場所や食事場所など、職場での感染リスクが高い場所の再点検

#### ■テレワークや時差出勤などのより一層の徹底



**道内全域（札幌市内を除く）**

**（※）の措置は12月25日まで**

**【道民及び道内に滞在している皆様への要請】**

■ 感染リスクを回避できない場合 **（※）**

- ・ 札幌市との不要不急の往来を控える
- ・ 旭川市内における不要不急の外出を控える
- ・ 外出自粛など都府県において行動制限が要請されている地域との不要不急の往来を控える

■ 感染リスクを回避する行動の徹底

- ・ 自宅を含む飲食の場面においては、5人以上や2時間を超える長時間の飲食を控える（同居者のみの場合を除く）
- ・ 「北海道スタイル」の実践を宣言していない店舗や施設の利用を控える
- ・ 重症化リスクの高い方と接する方及び重症化リスクの高い方においては、マスクの着用、手洗いなど感染リスクを回避する行動を更に徹底する
- ・ 発熱や咳があるなど体調が悪い場合に外出を控える
- ・ 国の接触確認アプリ（COCOA）や道のコロナ通知システムを徹底して活用する

**【事業者の皆様への要請】**

- 業種別ガイドラインや北海道スタイルなど、店舗における感染拡大防止対策の再確認と徹底
- 年末年始における挨拶回りを控える
- 休憩場所や食事場所など、職場での感染リスクが高い場所の再点検
- テレワークや時差出勤などのより一層の徹底

**特措法に基づく協力要請の内容の補足 ～ 札幌市内を含む道内全域 ～ （参考）**

■ 感染リスクを回避できない場合の例

- 北海道スタイルを実践していない施設等の利用
- 密閉された屋内において、人との距離が十分に保たれない長時間の会合
- 飲食の場面 （同居者のみの場合を除く）においては、大人数、例えば5人以上の集まり、マスクをしない大声での会話、2時間を超えるような長時間の飲食 など

■ 体調が悪い場合の例

- 発熱や倦怠感、咳、のどの痛み、味覚・嗅覚の異常、筋肉関節の痛み、吐き気がある場合 など

## 感染拡大防止対策の更なる強化

### ■感染者の増加を見越した相談診療検査体制の更なる整備

- ・感染の兆候を把握し検査につなげるため、一般相談窓口の体制強化
- ・発熱患者に対する診療体制等の整備
- ・感染拡大地域における重点的なPCR検査等の実施
- ・集団感染が発生した場合の迅速な対応 ※別紙参照
- ・感染者が発生した施設に対する感染予防策の徹底などのアフターフォロー

### ■感染が拡大している地域における療養体制の確保

- ・患者受入医療機関や即応病床数の確保
- ・宿泊療養施設の迅速な確保

### ■普及啓発等の強化

- ・「集中対策期間」(12/12～1/15)の集中的な啓発広報
- ・感染状況に応じた振興局毎の集中的な広報
- ・「普及啓発用資料」の活用、出前講座の実施
- ・札幌市内の多くの人々が利用する場所での集中的な広報
- ・繁華街でのマスク着用などの個別啓発
- ・新北海道スタイルの実践やテレワークの推進など、企業に対する働きかけ

## 札幌市内の事業者の皆さまへの協力要請

## 休業

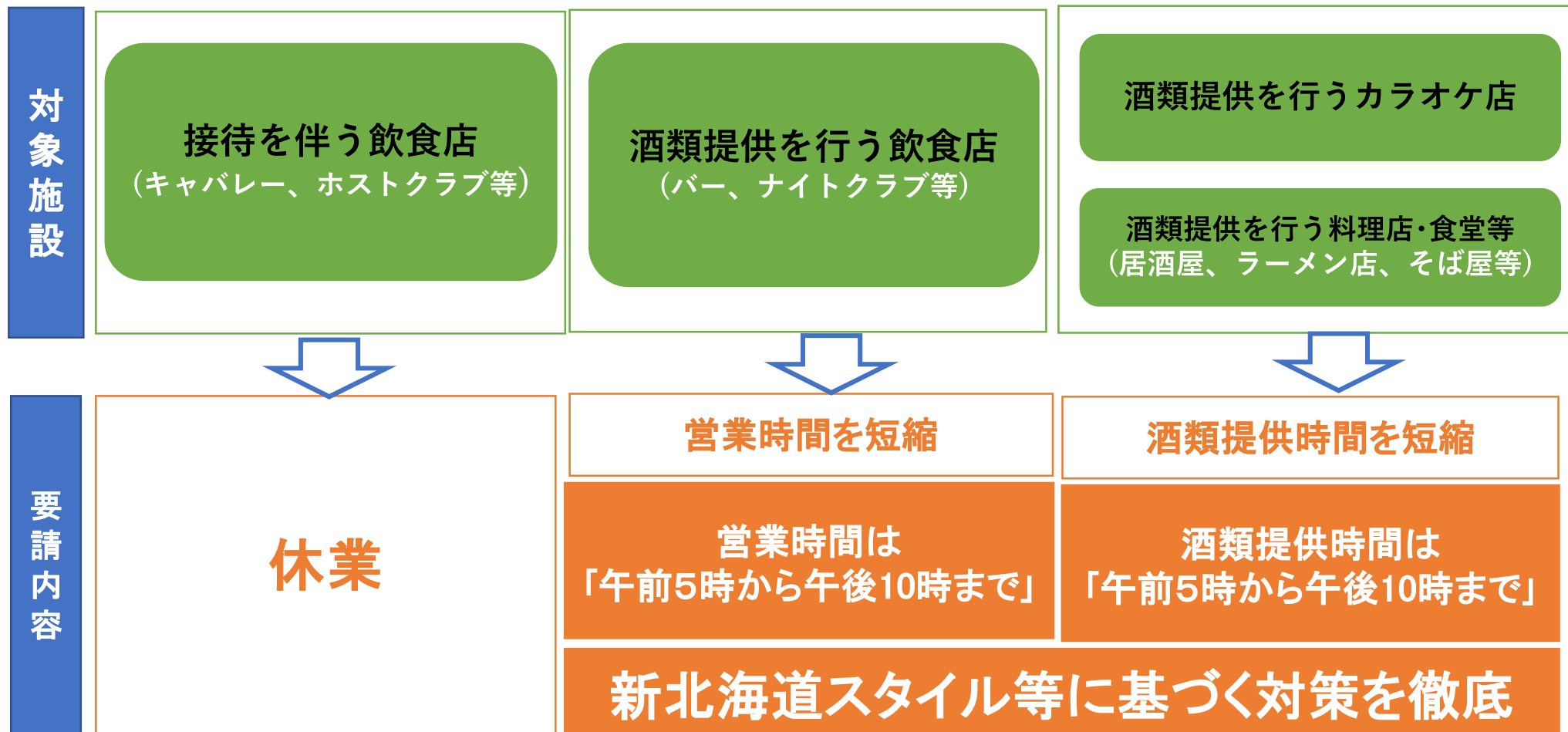
区域	札幌市内
期間	12月12日(土)から12月25日(金)
対象施設	○接待を伴う飲食店 ※

※ 風営法第2条第1項第1号に該当する営業を行う店舗

## 営業時間の短縮等

区域	すすきの地区 (南3条から南8条まで、西2丁目から西6丁目までの区域・狸小路1丁目から狸小路7丁目までの狸小路に面する区域)
期間	12月12日(土)から12月25日(金)
対象施設	○酒類提供を行う飲食店 ○酒類提供を行うカラオケ店 ○酒類提供を行う料理店・食堂等

## 対象施設と要請内容



# 集団感染への迅速な対応

資料2  
【別紙】

## 【事前準備】

- ・振興局ごとの即応体制整備

## 【発生後】

- ・現地支援対策本部の設置
- ・衛生資材の確保
- ・道の医師・看護師・保健師等の派遣
- ・「北海道感染症広域支援チーム」の迅速な編成・派遣
- ・厚生労働省クラスター班やDMAT(Disaster Medical Assistance Team)支援チームなど、国の専門家等の派遣・支援要請
- ・全国知事会を通じた都府県への保健師等の応援要請
- ・感染者の搬送・入院等に関する調整
- ・離島における船舶・ヘリコプター等の手配・調整
- ・積極的な新型コロナウイルス検査に対応するため検体採取用車両を活用
- ・医療提供体制のひっ迫度合いに応じた病床の確保や医療スタッフの派遣



## 今後のステージの運用及び 感染拡大防止に向けた対策（道案）に対する主な意見

### 1 専門家等の意見

- ・ ステージ運用と対策期間の延長について異論はない。
- ・ 旭川市への措置についても実施すべき。
- ・ 札幌市においてはステージ4相当の効果が現れてきているが、医療機関のひっ迫した状況は依然続いており、これ以上負担をかけないためにもこの2週間は重要な局面なので対策の継続が必要。
- ・ 旭川についても札幌と同様の対策を講じても良いのではないかと。
- ・ 旭川の状況は、危機的であり厳しい対策が必要。
- ・ 各地で今後行われる成人式や冬まつり等の行事についても自粛や中止の要請をすべきではないかと。
- ・ 集中対策期間の延長については、やむを得ないと思うが、12月25日以降は一部継続の話なので、整理を変えた方が良いのではないかと。道民の気持ちも1月15日まで持続できないのではないかと。地域経済をこれ以上悪くしないかと懸念している。
- ・ 医療提供体制の状況などから考えて、旭川市にも特段の対応を求めるのはやむを得ないと考える。
- ・ 札幌の感染状況が落ち着いてきているなか、ここで解除すると折角の効果がなくなってしまうとともに、年末・年始の人出を回避する必要があるため、1月15日までの延長は賛成。

### 2 市町村・関係団体の意見

- ・ 年末年始に向け、感染拡大を徹底して抑え込むことが必要であり、札幌市に対する強い措置はもとより、道内全域に対しても徹底した対策が必要。
- ・ 都府県において行動制限が要請されている地域との不要不急の往來を控えることが追記されたが、これに加え、道内の感染者が増えている地域との不要不急の往來自粛などの呼びかけをすることも必要と考える。

- 一般的な感染拡大防止策は既に一人一人が取り組んでいるので、その徹底を要請することに尽きるのではないかと考える。
- 集中対策期間が「令和3年1月15日まで」に対し、営業時間の短縮など一部の対策が、12月25日と異なることについて、丁寧な説明が必要。
- 約2か月半にわたる長期の集中対策期間となることから、道民への集中的な啓発広報について、一層配慮いただき、特に若年層に届くメッセージをお願いしたい。
- これまでの対策は一定の効果があったと考えられる一方で、病床数のひっ迫度合いが依然として厳しい状況にあることを考えると、今回の対策はやむを得ないものとする。
- 対策の延長及び今後のステージの引き上げに伴って、企業の倒産・廃業や従業員の雇止めにつながることはないよう、継続的な支援策をお願いしたい。
- 感染拡大が一定程度収まった後には、札幌市を含めたこれらの業種に関わる需要の積極的な喚起策を講じていただきたい。
- 病院、介護施設でのクラスター発生により、働く人への差別がないよう、今一度、啓発に力を入れて頂きたい。
- 公共交通機関にとって対策の延長は、年末年始の帰省に伴う移動に対しても多大な影響を及ぼすものと考えられ、地域の公共交通を守るため、需要喚起策に加え、損失などに対する支援が不可欠。
- 集中対策期間の延長や札幌市への強い措置はやむを得ないものとする。



# 新型コロナウイルス感染症について

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部（R2.12.10）

## 1 発生の状況

(1) 道内の発生状況及び検査の状況

■検査及び患者の状況（12/8現在）

検査件数	175,957	現在患者	2,248
陽性累計	10,367	うち現在入院患者	998
陰性確認済累計	7,848	うち宿泊療養施設入所者	514
死亡累計	271	うち入所日調整中	269
		うち自宅療養者	467

(2) 国内の発生状況（厚生労働省発表）

12月9日0時までに確認されている感染者は165,840例  
入院治療等を要する者22,550名、死亡者は2,420名

## 2 国などの対応

- (1) 着実な検疫の実施及び強化（全ての航空便において質問票の配布、機内アナウンスの拡大、健康カードの配布等の強化）
- (2) 国内における感染拡大防止に向けた対策の強化（地方自治体、医療機関と連携、地方衛生研究所での検査）
- (3) 国民への情報提供（宿泊施設への周知、国民向けQ & A）
- (4) 2月1日、新型コロナウイルス感染症を指定感染症（感染症法第6条）及び検疫感染症（検疫法第2条第3項）に指定
- (5) 2月1日、都道府県に対し「帰国者・接触者外来」、「帰国者・接触者相談センター」の設置指示。
- (6) 2月9日、地方衛生研究所における検疫業務（クルーズ船）に関連する検査への協力依頼
- (7) 2月12日、新型コロナウイルス感染症に関する流行地域に浙江省を追加
- (8) 2月13日、無症状病原体保有者の入院を措置対象へ追加
- (9) 2月15日、都道府県に対し「帰国者・接触者相談センター」、「帰国者・接触者外来」の更なる充実について依頼。
- (10) 2月17日、都道府県、保健所設置市及び特別区に対し、感染症に関する行政検査の対象者をとりまとめた旨通知。
- (11) 2月17日、新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安について公表。
- (12) 2月18日、無症状病原体保有者の退院及び就業制限の取扱いを変更。
- (13) 2月20日、「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」を公表
- (14) 2月20日、職場における拡大防止に向けた取り組みについて、経済団体に要請。
- (15) 2月24日、専門家会議見解（「ここ1～2週間が瀬戸際」）

- (16) 2月25日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を決定
- (17) 2月25日、厚生労働省にクラスター対策班を立ち上げ、国立感染症研究所の専門家チームを北海道に派遣（3名）。
- (18) 2月27日、釧路市へ国立感染症研究所の専門家チーム派遣（2名）
- (19) 2月27日、第15回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、首相が全国全ての小学校、中学校、高校、特別支援学校について、3月2日から春休みまで臨時休業とすることを要請。
- (20) 2月28日、当本部の感染症対策チームから北見市へ国立感染症研究所の専門家チーム派遣（2名）するとともに、その後任として、北海道に追加派遣（1名）。
- (21) 2月29日、総理緊急記者会見で臨時休校の趣旨説明、所得減少に伴う助成金制度創設などの今年度予備費2,700億円を活用した緊急対応策第2弾のとりまとめを表明。
- (22) 3月1日、第16回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、道内の感染者の広がりが見える市町村住民へのマスク配布のため、国民生活緊急安定措置法に基づくメーカーに対するマスクの国への売り渡しを表明。
- (23) 3月2日、専門家会議見解（「この一両日で明らかになったこと」、「北海道で実施すべき対策」）
- (24) 3月3日、保健師を北海道に派遣（2名）
- (25) 3月3日、厚生労働省が国民生活緊急安定措置法に基づきメーカーに対し、マスクの売渡しを指示。中富良野町及び北見市への優先配布を表明。（3月5日より配布）
- (26) 3月5日、第17回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、水際対策を強化（中国・韓国からの航空便の到着空港を成田、関空に制限、入国者の14日間の待機要請を表明。（3月9日より適用））
- (27) 3月9日、専門家会議見解（「一定程度持ちこたえている」、「北海道の対策の効果」）
- (28) 3月10日、厚生労働省がせたな町、美瑛町、木古内町、知内町へのマスクの優先配布を表明。（3月12日より配布）
- (29) 3月10日、新型インフルエンザ等対策特別措置法改正案閣議決定
- (30) 3月10日、第19回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策－第2弾－発表
- (31) 3月11日、WHOがパンデミック（世界的な大流行）を宣言
- (32) 3月13日、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法が成立。
- (33) 3月17日、厚生労働省が道内35市町村の介護施設等へのマスクの優先配布を表明。（3月19日より配布）
- (34) 3月18日、第20回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、水際対策を強化（イタリア、スペイン、スイスの一部、アイスランドからの入国拒否（3月19日から適用）。欧州諸国、イラン、エジプト38カ国からの入国者の14日間の待機要請を表明（3月21日より適用））。
- (35) 3月23日、第22回新型コロナウイルス感染症対策本部を開催し、水際対策を強化（アメリカ合衆国からの入国者の14日間の待機要請を表明（3月26日より適用））。
- (36) 3月26日、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室が新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症対策本部を設置、直ちに、都道府県対策本部を設置するよう通知。

- (37) 3月26日、第23回対策本部で、水際対策を強化（イタリアやスペイン、ドイツなどヨーロッパ21か国とイランからの入国拒否と東南アジア、中東、アフリカからの帰国者の14日間の待機要請を表明（3月27日より適用））。
- (38) 3月28日、第24回新型コロナウイルス感染症対策本部で、クラスター対策の強化や爆発的な患者の急増に備えて病床の確保することを盛り込んだ「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を決定。
- (39) 4月1日、第25回新型コロナウイルス感染症対策本部で水際対策を強化（入国拒否を73の国と地域に拡大（4月3日から適用））。
- (40) 4月7日、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策について閣議決定。
- (41) 4月7日、緊急事態宣言。（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都府県において4月7日から5月6日まで）
- (42) 4月7日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を改定し、「最低7割、極力8割程度の接触機会の低減」、「緊急事態の対象都道府県による外出自粛等の協力要請」などを明記。
- (43) 4月11日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を改定し、「緊急事態宣言の対象都道府県以外の都道府県が、繁華街の接客を伴う飲食店等への外出自粛について、強く促す」ことを明記。
- (44) 4月16日、全国に緊急事態宣言。（4月7日に緊急事態宣言が出されている7都府県のほか、新たに北海道を含む40道府県において4月16日から5月6日まで）
- (45) 4月16日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を改定し、緊急事態宣言の対象区域を全都道府県に拡大するとともに、「4月7日に緊急事態宣言が出されている東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県のほか、この7都府県と同程度にまん延が進んでいる北海道、茨城県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府を特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要がある都道府県を特定警戒都道府県（13都道府県）」として明記。
- (46) 4月18日、札幌市へ国立感染症研究所の専門家チーム派遣
- (47) 4月22日、専門家会議見解（「人との接触を8割減らす、10のポイント」、「都道府県知事等の更なるリーダーシップの発揮」）
- (48) 4月27日、第32回新型コロナウイルス感染症対策本部で水際対策を強化（入国拒否を87の国と地域に拡大（4月29日から適用））。
- (49) 5月1日、専門家会議見解（「感染の状況が厳しい地域では、対策により新規感染者数が一定水準まで低減するまでは、引き続き、「徹底した行動変容の要請」が必要。」）
- (50) 5月4日、政府対策本部において、5月6日までとした緊急事態宣言の期間について、全都道府県を対象に5月31日まで延長することを決定。
- (51) 5月4日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を変更し、「特定警戒都道府県」で引き続き接触機会の8割削減などを明記。
- (52) 5月4日、専門家会議見解（「今後の感染拡大が当面起こり難い程度にまで、取組を継続する必要がある」、「医療提供体制については、引き続き体制強化を進めることが重要」、「長期的な対策の継続が市民生活や経済社会に与える影響という観点からの検討も行う体制整備を進めるべき」など）
- (53) 5月8日、「専門家会議提言」を踏まえ、厚生労働省のホームページ上において、

可能な範囲で地域ごとのまん延の状況に関する指標等を公表。

- (54) 5月14日、専門家会議見解（「東京都、北海道、大阪府等は未だに警戒が必要な状況が続く」、「緊急事態措置の解除の考え方として感染状況、医療提供体制、検査体制構築などを総合的に判断することが必要」「新しい生活様式の定着、業種別の感染拡大予防のガイドラインの実践、地域のリスク評価に応じた対応が求められる」など）
- (55) 5月14日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を変更し、緊急事態宣言の対象区域が変更（一部解除）され、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県が引き続き「特定警戒都道府県」とされた。
- (56) 5月14日、業種ごとの感染拡大予防ガイドラインを公表。
- (57) 5月14日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に基づき、各事業者が自主的な取組を実施するにあたって、「職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理の強化について」経済団体などに協力を依頼。
- (58) 5月21日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を変更し、緊急事態宣言の対象区域が変更（関西3府県が解除）され、北海道、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県が引き続き「特定警戒都道府県」とされた。
- (59) 5月25日、緊急事態解除宣言。
- (60) 5月25日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を変更し、概ね3週間ごとに地域の感染状況等を評価しながら、外出の自粛、イベント等の開催制限や施設の使用制限の要請等について段階的に緩和していく旨を明記。
- (61) 5月29日、専門家会議見解（「次なる波」を見据え、サーベイランス体制の強化、検査体制の強化、クラスター対策、医療提供体制の整備、治療法・治療薬の開発等に取り組むべき」など）。
- (62) 6月18日、現行の水際対策を維持し、追加的な防疫措置を条件とし、ビジネス上必要な人材等の出入国について、例外的な枠を設置。
- (63) 6月19日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に基づき、社会経済活動のレベルを一段階引き上げ、都道府県をまたぐ移動の自粛等を緩和。
- (64) 6月19日、WHO「パンデミックが加速。危険な新局面」との認識を表明。
- (65) 6月19日、「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の利用開始。
- (66) 7月3日、「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」を廃止し、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「新型コロナウイルス感染症対策分科会」の設置を決定。
- (67) 7月6日、「新型コロナウイルス感染症対策分科会」を開催。
- (68) 7月16日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第2回）開催。
- (69) 7月22日、観光に関する消費を喚起するため、「Go Toトラベル事業」開始。
- (70) 7月22日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第3回）開催。
- (71) 7月22日、新型コロナウイルス感染症対策本部（第41回）開催。  
大規模イベントの開催制限を8月末まで延長することを決定。
- (72) 7月31日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第4回）開催。
- (73) 8月7日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第5回）開催。
- (74) 8月21日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第6回）開催。
- (75) 8月24日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第7回）開催。

大規模イベントの開催制限を9月末まで再延長することを決定。

(76) 8月28日、新型コロナウイルス感染症対策本部（第42回）開催。

「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」を決定。

(77) 9月4日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第8回）開催。

(78) 9月11日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第9回）開催。

大規模イベントの開催制限を9月19日以降一部緩和することを決定。

(79) 9月25日、新型コロナウイルス感染対策本部（第43回）、分科会（第10回）開催。

(80) 10月1日、感染予防対策に取り組む飲食店及び、食材を供給する農林漁業者を支援する、「G o T o E a t キャンペーン事業」を本格開始。

(81) 10月1日、防疫措置を確約できる受け入れ企業等がいることを条件に、原則すべての国・地域における留学、家族滞在等その他の在留資格も対象とし、新規入国を許可。

(82) 10月15日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第11回）開催。

(83) 10月19日、各地域で商店街が、率先して地元の良さの発信や地域社会の価値を見直すきっかけとなる取組を行い、地域に活気を取り戻していくことを通じ、商店街の活性化につなげるため、「G o T o 商店街事業」を開始。

(84) 10月23日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第12回）開催。

(85) 10月29日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第13回）開催。

(86) 10月30日、新型コロナウイルス感染対策本部（第44回）開催。

(87) 11月9日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第14回）開催。

(88) 11月10日、新型コロナウイルス感染対策本部（第45回）開催。

(89) 11月12日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第15回）開催。

大規模イベントの開催制限を2月末まで再延長することを決定（映画館や野外フェス等における感染防止策等を明示）。

(90) 11月16日、新型コロナウイルス感染症対策本部（第46回）開催。

(91) 11月20日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第16回）開催。

(92) 11月21日、新型コロナウイルス感染症対策本部（第47回）開催。

G o T o トラベル事業は、感染拡大地域を目的地とする旅行の新規予約を一時停止するなどの措置の導入。G o T o イート事業は、食事券の新規発行の一時停止やポイント利用を控えることについて検討を要請。

(93) 11月25日、新型コロナウイルス感染症対策分科会（第17回）開催。

(94) 11月27日、新型コロナウイルス感染症対策本部（第48回）開催。

### 3 道の対応

(1) 道立保健所を通じ、医療機関へ国の通知に基づき発生時対応を通知。指定感染症としての届出基準、検査対応等について順次周知徹底。

(2) 新型コロナウイルス検査を道立衛生研究所で実施する体制整備（1月30日から検査可能）

(3) 道民等の皆様への情報提供、注意喚起

(ア) ホームページ等により道民の皆様への情報提供

Q & A、休日夜間の電話対応開始

道民向けのリーフレット（相談・受診の目安）を作成

(イ) 多数の方々が利用する宿泊施設、飲食店、遊技施設等への注意喚起を徹底し、北海道外国人相談センターへの協力を依頼。

1月22日、宿泊施設、関係団体等（宿泊者への対応等）、外国人相談センター

1月23日、観光関係団体等

1月30日、宿泊施設、観光関係団体等（衛生管理等）

1月30日、交通事業者への衛生管理徹底

2月10日、宿泊施設等関係団体、観光関係団体（帰国者・接触者相談センターの周知等）

(ウ) 保健所等による相談対応

1月30日 休日・夜間の電話対応の開始

(4) 1月29日、厚生労働省へ「新型コロナウイルス感染症に関する緊急要望書」提出

(5) 関係会議の開催状況

1月23日 庁議

1月24日 緊急保健所長会議

1月24日 感染症危機管理対策本部幹事会開催

1月28日 " 本部設置、第1回本部会議開催

1月31日 " 第2回本部会議開催

1月31日 緊急保健所長会議

2月 7日 感染症危機管理対策本部 第3回本部会議開催

2月14日 " 第4回本部会議開催

2月19日 " 第5回本部会議開催

2月21日 " 第6回本部会議開催

2月25日 " 第7回本部会議開催

2月28日 " 第8回本部会議開催

3月 3日 " 第9回本部会議開催

3月10日 " 第10回本部会議開催

3月18日 " 第11回本部会議開催

3月24日 " 第12回本部会議開催

3月27日 新型コロナウイルス感染症対策本部 第1回本部会議開催

4月 2日 " 第2回本部会議開催

4月 3日 " 第3回本部会議開催

4月 7日 " 第4回本部会議開催

4月12日 " 第5回本部会議開催

4月17日 " 第6回本部会議開催

4月20日 " 第7回本部会議開催

4月24日 " 第8回本部会議開催

4月30日 " 第9回本部会議開催

5月 4日 " 第10回本部会議開催

5月 6日 " 第11回本部会議開催

5月15日 " 第12回本部会議開催

5月22日 " 第13回本部会議開催

5月25日	〃	第14回本部会議開催
5月29日	〃	第15回本部会議開催
6月18日	〃	第16回本部会議開催
7月 9日	〃	第17回本部会議開催
7月17日	〃	第18回本部会議開催
7月27日	〃	第19回本部会議開催
7月31日	〃	第20回本部会議開催
8月 7日	〃	第21回本部会議開催
8月25日	〃	第22回本部会議開催
9月14日	〃	第23回本部会議開催
10月28日	〃	第24回本部会議開催
11月 7日	〃	第25回本部会議開催
11月17日	〃	第26回本部会議開催
11月24日	〃	第27回本部会議開催
11月26日	〃	第28回本部会議資料

- (6) 2月7日、本庁及び保健所に「帰国者・接触者相談センター」設置、「帰国者・接触者外来」の整備
- (7) 2月25日、保健福祉部長をチーム長とする「新型コロナウイルス感染症対策チーム」を設置。(5班体制：総括班、広報班、医療体制班、保健活動班、相談対応班)  
また、知事による要請のもと、厚生労働省から国立感染症研究所の専門家チームの派遣を受ける。
- (8) 2月26日、知事名で「新型コロナウイルス感染症に対応した学校の臨時休業等の要請について」を発出。
- (9) 2月28日、知事から「新型コロナウイルス緊急事態宣言」を発表、週末(2月29日、3月1日)の外出を控えることを呼びかけ。
- (10) 2月29日、知事から総理に対し「新型コロナウイルス感染症への対応に関する緊急要望」を提出。
- (11) 3月1日、知事から3月2日以降、「換気が悪く人が大勢集まる場所には行かないこと」、「風邪気味の方は自宅で休んでいただくこと」などについてメッセージ発出。
- (12) 3月2日、本庁の「帰国者・接触者相談センター」の相談時間を24時間化。
- (13) 3月4日、前日までの検査数、陽性者の内訳(死亡、退院、治療中)のホームページでの公表開始。
- (14) 3月4日、北見保健所でPCR検査を開始。  
(※旭川市においても、旭川市保健所でPCR検査を開始)
- (15) 3月4日、知事から週末(3月8日、9日)の外出時の注意事項について呼びかけ。
- (16) 3月9日、衛生研究所のPCR検査機器増設(1日80人→140人)。※道全体で180人(道衛生研140、札幌市衛生研20、北見保健所10、旭川市保健所10)
- (17) 3月12日、小樽市保健所及び函館市衛生検査所でPCR検査を開始。※道全体で200人(道衛生研140、札幌市衛生研20、北見保健所10、旭川市保健所10、小樽市保健所10、函館市衛生検査所10)
- (18) 3月12日、知事から週末(3月14日、15日)の外出時の注意事項について呼びかけ。

- (19) 3月18日、知事から緊急事態宣言（2/28～3/19）の終了と新たなステージへの移行、外出時の注意事項について呼びかけ。
- (20) 3月26日、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「北海道新型コロナウイルス感染症対策本部」の設置。
- (21) 3月28日、政府の基本的対処方針の決定を受け、「北海道新型コロナウイルス感染症の対処方針」を決定。
- (22) 3月29日、千葉県内の障害者施設における利用者及び職員の施設内集団感染の発生事例の重大さを踏まえ、改めて社会福祉施設等に対し、施設内における感染拡大防止対策を徹底するよう通知。
- (23) 4月1日、道立施設及び道主催のイベント等再開。
- (24) 4月7日、政府の基本的対処方針の決定を受け、「北海道新型コロナウイルス感染症の対処方針」を改定。
- (25) 4月7日、国の緊急事態宣言を受け、4月8日から5月6日までを「新型コロナウイルス感染症集中対策期間」とすることを発表。
- (26) 4月8日、道の玄関口となる主要な交通拠点において、来道者に対する不要不急の外出自粛などを呼びかけるためチラシを配架。
- (27) 4月9日、相談対応を充実させるため、LINEを活用した相談支援のための公式アカウントを開設。
- (28) 4月12日、「新型コロナウイルス感染症対策チーム」に「宿泊療養班」を設置し、既存の総括班、広報班、医療体制班、保健活動班、相談対応班とあわせ6班体制に拡充。
- (29) 4月12日、北海道・札幌市緊急共同宣言を発表。4月14日から5月6日までの間、札幌市内の小・中・高等学校の一斉休業（札幌市からの通学生の割合が高い近隣の高等学校も同様の措置）。この間、不特定多数の人が利用する札幌市内の公共施設を休館。緊急事態宣言地域との往来自粛等。
- (30) 4月13日、「来道者・帰省者・転勤者相談ダイヤル」を開設。
- (31) 4月15日、「新型コロナウイルス感染症対策チーム」に「水際対策班」を新設し、4月15日から19日の5日間、新千歳空港国内線ターミナルの到着客に対し、道として、サーモグラフィーによる体温監視と啓発チラシによる注意喚起を実施。
- (32) 4月16日、政府の基本的対処方針の変更を受け、「北海道新型コロナウイルス感染症の対処方針」を改定。
- (33) 4月17日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議（第1回）開催（書面）。
- (34) 4月17日、知事から宿泊療養に係る自衛隊への災害派遣要請。
- (35) 4月17日、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止のための「北海道」における緊急事態措置を決定。
- (36) 4月20日、北海道における緊急事態措置を改訂し、休業要請の措置などを追加。
- (37) 4月20日、札幌市内における軽症者に係る宿泊療養（宿泊施設は「東横INN札幌すすきの南」（札幌市中央区。））の開始（120名程度）。
- (38) 4月21日、「休業要請相談専用ダイヤル」を開設。
- (39) 4月24日、北海道における緊急事態措置を改訂し、スーパーマーケット、公園等における感染拡大防止の要請（協力依頼）を追加。



- (40) 4月27日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議（第2回）開催（書面）。
- (41) 4月29日、軽症者について、入院を経ずに宿泊療養を実施。
- (42) 4月30日、宿泊療養施設2棟目（「リッチモンドホテル札幌駅前」）での受入開始（最大140名程度）。
- (43) 4月30日、知事、札幌市長、北海道市長会長、北海道町村会長連名による「ゴールデンウィーク緊急メッセージ」、「医療機関の皆様への緊急メッセージ」を発表。
- (44) 4月30日、「休業協力・感染リスク低減支援金」の申請受付開始（4月30日～7月31日まで）。
- (45) 5月4日、国の「緊急事態宣言」が延長されたことを踏まえ、5月10日（日）まで休館としている道立施設について、5月15日（金）まで休館を延長することを発表。
- (46) 5月6日、国の「緊急事態宣言」が延長されたことを踏まえ、北海道における緊急事態措置を5月31日まで延長。
- (47) 5月8日、知事、札幌市長、北海道市長会長、北海道町村会長連名による緊急メッセージ第2弾を発表。
- (48) 5月8日、宿泊療養施設3棟目（「アパホテル&リゾート札幌」）での受入開始（最大670名程度）。
- (49) 5月8日、感染拡大の影響により、経済的に困窮する学生や離職を余儀なくされた方々への臨時的な就労機会を確保するため、道の会計年度任用職員の募集を開始。
- (50) 5月8日、高齢者などの社会福祉施設における感染拡大防止対策を行うため「新型コロナウイルス感染症対策チーム」に「福祉施設支援班」を設置。
- (51) 5月13日、「新型コロナウイルス感染症対策に関する今後の基本的考え方」を発表。
- (52) 5月14日、雇用調整助成金「申請サポート窓口」を開設。
- (53) 5月14日、「持続化給付金サポート窓口」を開設。
- (54) 5月15日、北海道における緊急事態措置を改訂し、石狩振興局管内を除く地域について休業要請の一部を解除。
- (55) 5月15日、知事、札幌市長、北海道市長会長、北海道町村会長連名による緊急メッセージ第3弾を発表。
- (56) 5月21日、「道立施設の再開に向けた感染防止対策の指針」を策定
- (57) 5月22日、北海道における緊急事態措置を改訂し、5月25日以降の休業要請対象施設の一部を解除。
- (58) 5月22日、宿泊療養施設「アパホテル&リゾート札幌」の一部を、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「臨時の医療施設」として位置づけ。
- (59) 5月25日、緊急事態宣言の解除を受け、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止に向けた「北海道」における取組を発表。
- (60) 5月29日、「新型コロナウイルス感染症対策に関する基本方針」を策定。
- (61) 5月29日、「北海道コロナ通知システム」の運用開始。
- (62) 5月29日、「経営持続化臨時特別支援金」の申請受付開始（支援金A～令和2年8月31日まで、支援金B～令和3年1月31日まで）。
- (63) 6月1日、全ての施設の休業要請を解除、外出自粛、イベント開催制限の段階的緩和を開始（ステップ1：6月1日～6月18日）。
- (64) 6月16日、胆振総合振興局管内における新型コロナウイルス感染症に係る注意を促

- す「呼びかけ」（新型コロナウイルス注意報の発令）の実施（6月16日～7月6日）。
- (65) 6月19日、「新型コロナウイルス感染症対策に関する基本方針」に基づき、「ステップ2」に移行。
  - (66) 6月19日、石狩振興局管内における「呼びかけ」の実施（6月19日～7月5日）。
  - (67) 6月30日、3棟の宿泊療養施設うち、「東横INN札幌すすきの南」（札幌市中央区）の契約期間が終了。
  - (68) 7月1日、「観光誘客促進道民割引事業（どうみん割）」開始
  - (69) 7月5日、石狩振興局管内における「呼びかけ」の実施期間を延長（～7月22日）。
  - (70) 7月6日、胆振総合振興局管内における「呼びかけ」を解除（6月16日～7月6日）。
  - (71) 7月9日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議（第3回）開催（書面）。
  - (72) 7月10日、新型コロナウイルス感染症対策の取組を中長期的な視点で総合的に推進するため、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部に新たに副知事をトップとする対策本部指揮室を設置。
  - (73) 7月16日、すすきの地区で発生した集団感染の早期収束に向け、札幌市と連携して合同の対策チームを設置することについて合意。
  - (74) 7月17日、「札幌市・北海道合同感染症対策チーム」設置。
  - (75) 7月21日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議（第4回）開催。
  - (76) 7月22日、石狩振興局管内における「呼びかけ」の実施期間を延長（～8月11日）。
  - (77) 7月23日、札幌市と合同で「すすきの地区臨時PCR検査センター」設置。
  - (78) 7月27日、イベント等の開催制限について、8月末まで5000人以下、収容率50%の制限を維持することを決定。
  - (79) 7月30日、北海道新型コロナウイルス感染症対策有識者会議（第1回）開催。
  - (80) 8月6日、北海道新型コロナウイルス感染症対策有識者会議（第2回）開催。
  - (81) 8月7日、上川総合振興局管内における「呼びかけ」の実施（8月7日～8月27日）。
  - (82) 8月11日、石狩振興局管内における「呼びかけ」の実施期間を延長（～8月31日）。
  - (83) 8月20日、後志総合振興局管内における「呼びかけ」の実施。
  - (84) 8月24日、北海道新型コロナウイルス感染症対策有識者会議（第3回）開催。
  - (85) 8月27日、イベント等の開催制限について、9月末まで5000人以下、収容率50%の制限を維持することを決定。
  - (86) 8月28日、十勝総合振興局管内における「注意喚起」の実施（8月28日～9月10日）。
  - (87) 9月1日、石狩振興局管内における「注意喚起」の実施。
  - (88) 9月1日、日高振興局管内における「注意喚起」の実施。
  - (89) 9月2日、北海道新型コロナウイルス感染症対策有識者会議（第4回）開催。
  - (90) 9月7日、「北海道における新型コロナウイルス感染症対策に関する検証中間取りまとめ」を決定。
  - (91) 9月14日、イベントの開催制限について、9月19日から11月末まで、イベントの類型に応じて利用人数の上限値と、その収容率を緩和することを決定。
  - (92) 9月16日、「北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター」開設。
  - (93) 9月30日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議（第5回）開催（書面）。
  - (94) 10月1日、感染状況や観光客等の増加が見込まれることを受け、すすきの地区の飲食店・遊興施設等に注意喚起文書を道・札幌市の連携により配布。

- (95) 10月16日、「新型コロナウイルス人権相談窓口」開設。
- (96) 10月20日、「どうみん割ぷらす離島特例(りとうぷらす)」開始。
- (97) 10月26日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議(第6回)開催。
- (98) 10月26日、警戒ステージを「2」に引き上げ、10月28日から11月10日までの2週間を集中対策期間として、特措法第24条第9項に基づく協力要請を行うとともに、更なる感染拡大防止対策を実施することを決定。
- (98) 11月6日、北海道新型コロナウイルス感染症対策専門会議(第7回)開催(書面)。
- (99) 11月7日、警戒ステージを「3」に引き上げ、11月7日から27日までの3週間を集中対策期間として、すすきの地区において、接待を伴う飲食店などに営業時間の短縮等を行うなど、特措法第24条第9項に基づく協力要請を行うとともに、更なる感染拡大防止対策を実施することを決定。
- (100) 11月13日、宿泊療養施設として新たに確保した、「東横INN札幌すすきの交差点」での受入を開始(最大330名程度)。
- (101) 11月16日、「新型コロナウイルス感染症応援派遣」制度を活用し、国に対し、道立保健所への保健師等派遣について打診。18日から6県1大学から保健師等20名の派遣が決定(札幌市には11月7日から約30名の保健師が派遣)。
- (102) 11月17日、札幌を対象に、「不要不急の外出」及び札幌市外への「不要不急の往来」を控えていただくなど、「ステージ4相当の措置を講じること」を決定。
- (103) 11月20日、宿泊療養施設として新たに確保した、「ホテルフォルツァ札幌駅前」での受入を開始(最大270名程度)。
- (104) 11月21日、知事から全国知事会に対し看護師派遣を要請、13県20人程度の看護師等を受入予定。
- (105) 11月24日、札幌市が国のステージⅢ相当であると判断し、札幌市内におけるG・T・O・トラベル事業の一時停止について、国に申し入れを行うことを決定。
- (106) 11月25日、宿泊療養施設として新たに確保した、「コートホテル旭川」での受入を開始(最大90名程度)。
- (107) 11月26日、27日までの集中対策期間を2週間延長し、「札幌市内における接待を伴う飲食店」の休業を要請するとともに、すすきの地区の酒類提供を行っている施設について、営業時間等の短縮を継続して要請するなど、特措法第24条第9項に基づく協力要請を行うとともに、更なる感染拡大防止対策を実施することを決定。
- (108) 11月30日、宿泊療養施設として新たに確保した、「アパホテル帯広駅前」での受入を開始(最大190名程度)
- (109) 12月8日、旭川市における新型コロナウイルスの感染拡大防止に関し、道から陸上自衛隊北部方面総監部に災害派遣要請を行い、自衛隊において直ちに派遣を決定。